

発言者	発言内容
事務局	<p>本日はご多用の中、お集まりいただきありがとうございます。それでは、時間になりましたので、社会教育委員会会議を開催します。最初に、本協議会は、「山陽小野田市執行機関の附属機関における審議会等」に属しますので、「会議の公開に関する要綱」により、議事録を市ホームページで公表させていただきますことをご了承ください。また、要項に載せております「本委員会規則」にありますように、本日は委員の過半数の方にご出席いただいておりますので、本会議が成立しますことをお伝えしておきます。</p>
事務局	<p>続きまして、教育長よりご挨拶申し上げます。</p>
教育長	<p>(教育長挨拶)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域と学校の新しい関係が始まる」こと</li> <li>・学校は地域にとって「第 2 公民館」であるという捉え</li> <li>・平成 28 年 1 月発表「馳プラン」と本市がめざしているところは同様であること</li> <li>・キーワード「地域創生」について             <ul style="list-style-type: none"> <li>「地方創生」は、県、県より広いレベルの活性化</li> <li>「地域創生」は、学校区レベルの活性化をめざすもの</li> </ul> </li> <li>・ツールとしてのコミュニティ・スクール、地域協育ネット             <ul style="list-style-type: none"> <li>これらをどのように生かしていくかが重要であること</li> </ul> </li> <li>・ゆるやかなネットワークを作るためにも社会教育が柱になること             <ul style="list-style-type: none"> <li>「3 本柱の連携」=社会教育・学校教育・市長部局</li> </ul> </li> <li>・地域の皆さんが元気でいきいきする地域づくりをめざすためにも社会教育委員の助言が求められていること</li> </ul> <p>等に触れながら挨拶。</p>
事務局	<p>それでは、引き続き委員長にご挨拶をいただきたいと思います。委員長お願いします。</p>
委員長	<p>(委員長挨拶)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H28 4 月より、本市すべての小・中学校がコミュニティ・スクールになること</li> <li>・社会教育と学校教育の連携がますます必要になること</li> <li>・教育委員会会議と社会教育委員会会議の合同開催の可能性について</li> <li>・社会教育に携わる方々が「学校教育を知ることの重要性」について</li> <li>・高度な社会教育をめざすためにも「社会教育主事の育成」が益々重要になること。社会教育の専門家を育てていくことが重要であること</li> <li>・提言「活力あるコミュニティの形成のための社会教育の在り方」に基づき、今後の方向性を本会議で協議していただきたいこと</li> </ul> <p>等に触れながら挨拶。</p>

事務局	(参加者の教育委員、CS コンダクター、公民館主事について紹介)
委員 3名	(それぞれの立場を説明しながら自己紹介)
事務局	ありがとうございました。それでは教育長につきましては他の公務のため、ここで退席させていただきます。以降の議事は委員長にお願いしたいと思います。では、お願いします。
委員長	それでは早速ですが、議事に移ります。議題 1 社会教育予算について、事務局から説明をお願いします。
社会教育係長	平成 28 年度社会教育関連予算について ・新年度社会教育関連（新規事業）について説明。
委員長	はい、今、説明がありましたが、ご意見があればどうぞ。
委員	厚狭公民館の解体ですけど、解体後は何か使用の予定があるのでしょうか。
主査	現段階では売却処分の方針でございます。
委員長	何平米くらいあるのでしょうか。
主査	平米数については、今は正確に把握しておりません。
委員	あそこは一部赤道がありますよね。
主査	中にはなかったと思います。東側に走っているところはありますけど。
委員	ないですか。あるように聞いていたが。
委員長	まあ、長いですから。昔はあの場所に教育委員会がありましたね。 はい。よろしいでしょうか。それでは次の項目に移ります。「学校・家庭・地域の協働の取組について～「活力あるコミュニティ形成のための社会教育の在り方」ということでございます。事務局から説明をお願いします。

事務局	<p>(中央教育審議会答申 (H27 12/21 「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」 概要版) をもとにポイントを説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「支援から協働へ」</li> <li>・「多様な活動」を準備し、より多くの地域住民の参画をめざすこと</li> <li>・「地域学校協働活動」＝地域全体で未来を担う子供たちの成長を支えていく活動</li> <li>・活動を行いながら「つながりを生むように」「継続的な活動になるように」といったことを意識すること</li> </ul>
社会教育課長	<p>(地域学校協働本部」等について、追加説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育の側から、社会教育と絡める学習や活動が必要である。</li> <li>・「地方創生」として、地方の自助の力が期待されている現実。そのためにも、学校と地域がパートナーとなり活動していくことが求められている。理念としてはもっておく必要がある。</li> <li>・本市の場合、平成 24 年度からすべての小・中学校で学校支援地域本部事業が進められている。これを続けていき、何十年か先に地域の力が積みあがっていけばよい。</li> <li>・先ほどの説明では「つながること」「つづけること」ということだったが、私は「次の世代に広げていく。裾野を広げること」これが大切だと思う。そのためには、現在行っている活動を「見える化」し、次のステップへ進む必要があると思う。</li> <li>・先日、研修で千葉へ行き、秋津コミュニティの岸裕司さんにお会いした。岸さんによると「学校も地域もいっしょになって、地域や学校のことを考えようという姿勢を社会教育の関係者はもっておいてほしい」ということだった。スクール・コミュニティの考え方が地域学校協働本部のベースになっていることは確かなようだ。</li> </ul>
事務局	<p>(ワークショップの説明)</p> <p>現在行っている支援活動を「学校・家庭・地域」それぞれに振り分けることで「見える化」を図り、今後の活動について協議することを説明後、2グループに分かれてワークショップを実施。その後発表を行った。</p>





事務局	(事務局でワークショップのまとめを行い、終了)
事務局	(事務連絡) ・ 次回の会議は6月から7月に開催すること等を連絡した。
社会教育課長	(課長挨拶) ・ 国の動向をご理解いただき、現在の支援活動を「見える化」してみようということで本日はワークショップを行った。 ・ 秋津コミュニティの岸裕司さんによると、「コミスクは何のためにやるのか、ということは今一度考えてもらいたい。」とのことだった。 「つなげること」で何がしたいのかといったことを各地域で考えていく必要があるのだろう。それぞれがどうかかわっていくかが鍵である。  等を交えながら挨拶。